



丹 郎 学 舎

「志をもち 自ら学び 共に高め合い たくましく生きぬく 西溪っ子」の育成

第7号 R5. 11. 7発行 文責 大島和子

PIECE～ひとりひとりが大切～ 大きな感動を生んだ文化発表会



<西溪会によるオープニングの一場面>



<3年生による合奏の一場面>

10月27日(金)に文化発表会を開催しました。今年度は、1～9年生全員が一堂に会して行うことができ、保護者や地域の皆様にも多数参観いただくことができました。

文化発表会は、①日頃の学習や活動の成果を発表する ②芸術的なものや伝統文化を鑑賞する ③他の児童生徒と協力してやり遂げる などの目的があります。今回の文化発表会では、これらの目的に向かってそれぞれの学年やブロックがステージ発表や展示を行いました。

ステージ発表では、西溪会のオープニング：鑑賞のマナーを訴える劇を皮切りに、前半は、総合文化部の箏曲の演奏や低学年ブロックの劇や合奏、手話・歌の発表、大空学級による理科研究の発表を行いました。

1・2年生の劇・合奏では、“夢をかなえる”ために頑張ることを一人一人が大きな声で発表しました。

次の合唱発表会では、5～9年生がそれぞれの学年らしさを存分に発揮して素晴らしい合唱を披露しました。特に、9年生は“さすが9年生”という3部合唱を披露し、しばらく会場がその余韻で静まり返るほどでした。下級生もその姿に尊敬と憧れを抱いているようでした。

後半の中学年ブロックによる腰鼓と稊菜の舞は、先日の秋の稊菜で披露したものを文化発表会に合わせて再構成した発表でした。なぜ、西溪校が論語の取組を行っているかを劇を通して分かりやすく伝えました。その後のパフォーマンスも圧巻でした。

高学年ブロックによる劇は、9年生が修学旅行で訪れた広島原爆資料館で実際に目にした「まっ黒なお弁当」を題材にしたものでした。迫真の演技を通して平和の大切さを訴えていました。

また、展示発表でも素晴らしい作品の数々で、見ごたえがありました。



<4年生による手話を交えた歌の一場面>



<中学年ブロックによる劇の一場面>

今年度の文化発表会では、“ひとりひとり”が輝き、西溪校の文化を形作ってくれました。この文化は、来年度にしっかりと受け継がれていくものと思います。保護者や地域の皆様もお忙しい中に参観いただき、ありがとうございました。

「校内論語検定」が始まりました。

今週より、本校独自の取組の一つである1～6年生の「校内論語検定」が始まりました。この取組は、孔子の教えに触れさせることで、子どもたちに「恕の心(他者を思いやる心)」を育み、日常生活や学習に向かう態度の改善や向上を目指して、14日(火)までの昼休みに行われます。検定委員を7・8年の生徒が務めることで、下学年との交流を図ったり、上級生としての意識を高めたりすることも目的としています。また、地域の「学ぶんじゃー」の皆さんにも協力をいただき、1・2年生の予備テストを行ってもらっています。昨日が初日でしたが、それぞれの会場前には、テストや検定を待つ子どもたちで行列ができていました。中には、すでに「論語達人」になった児童もおり、合格して嬉しそうに検定カードを見せてくれる児童もいました。「論語達人」に合格した児童は、この後、「論語名人」「論語スーパー名人」に挑戦していくことになります。

今月21日(火)には、すこやか班ごとの対抗戦による校内論語カルタ大会も行われます。検定の成果が発揮され、大いに盛り上がる大会となることと思います。



<学ぶんじゃーによるテストのようす>



<論語検定委員による検定のようす>



<論語かるたの講話のようす>

さらに、10月20日(金)には、4～6年生を対象に、「百人一首式論語カルタ」を制作された市丸悦子様(市丸様)に講話をいただきました。市丸様は、「今日の論語」掲示板を設けたり、「論語検定」の前身である「論語名人」合格制を設けたりもされています。講話の中では、江戸時代の「東原庵舎」では、論語の素読が行われており、「多久の雀は論語をさえずる」といわれたほど論語が盛んであったことや、「論語いろはカルタ」から「百人一首式論語カルタ」を考え手作りされたこと、その後「論語を子どもたちに広めたい」という多くの方々の思いで100枚の現在のカルタが誕生したこと等を話してくださいました。市丸様の手作りのカルタを実際に手に取った児童は、その字と絵の素晴らしさに感心していました。

講話の最後には、上の句を読み手が読み、他の子どもたちが大きな声で下の句を言う場面もありました。

<お知らせ>

11月13日(月)10時30分より、文化整美委員会による今年度2回目の地域清掃ボランティア活動を行います。